

パーソンセンタード・アプローチとの出会い

南山大学人間関係研究センターのミッションは、「多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために」です。そのための研究の目的として、「広く学際的視野にたった人間関係研究」として、人間関係に関する理論研究、人間関係へのアプローチ方法の実践研究、人間性豊かな関係性と社会の創生に向けた応用研究、に取り組むことを掲げています。人間性豊かな関係性や社会の実現に密接に関わる領域が人間性心理学であり、その中でも、本号の特集のテーマになっている「パーソンセンタード・アプローチ」（以下、PCAと記します）とは深いかわりがあります。

PCAとは、C. Rogersが好んで用いていた言葉であり、彼のカウンセリングやエンカウンター・グループなどのアプローチが含まれ、個人の成長への可能性を信じて促進していく支援のありようが重視されています。最近日本語として市民権を得た、「ファシリテーター」という言葉も、元々はRogersが好んで使い始めたものです。特集では、センター研究員の坂中正義さんによる企画のもと、「パーソンセンタード・アプローチとの出会い」というテーマで、日本のPCAで著名な先生から5編の貴重なご寄稿をいただきました。また、2019年度冬に南山大学で開催した公開講演会「PCAの道一源流をたどる」の講演録も掲載されています。日本におけるPCAの歩みの英知が結集された記録として大きな価値がある本号を発行できることに誇りを感じるとともに、ご寄稿・ご校正いただきました諸先生に感謝申し上げます。

PCAの実践者・研究者の坂中正義さんが南山大学に赴任し、人間関係研究センターの一員となったのは2013年度からでした。その後、青木剛さんも加わり、2019年度からは当センターでPCAの公開講座もスタートしました。ラボラトリー方式の体験学習の研究と実践をしてきた当センターにとって、坂中さんが加わり、PCAの公開講座や公開講演会が開催され、本号で特集を組まれたこと自体が、当センターにとって「パーソンセンタード・アプローチとの出会い」なのです。PCAもラボラトリー方式の体験学習も、「人間性豊かな社会を創り出すために」という目指す方向性は同じであり、歴史が異なる2つのアプローチから、「教育の革新」が生まれる可能性があります。

特集以外には、Articleが2編、研究ノートが1編、実践報告が1編、資料が1編、掲載されています。研究ノートと実践報告は、オンライン授業での体験学習や実習に関わるものであり、コロナ禍の2020年度におけるオンラインでの当センター研究員の試行錯誤の成果を是非お読みください。

2020年度の当センターの諸活動は、20周年イベントや公開講演会の中止、多くの公開講座の中止と人間関係講座のオンラインでの実施と、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。2021年度前半に開催する予定の講座もオンラインでの実施を予定しています。TグループやPCAの講座が開催できるのは、まだ先になりそうですが、いつの日か必ず再開をしますので、もうしばらくお待ちください。